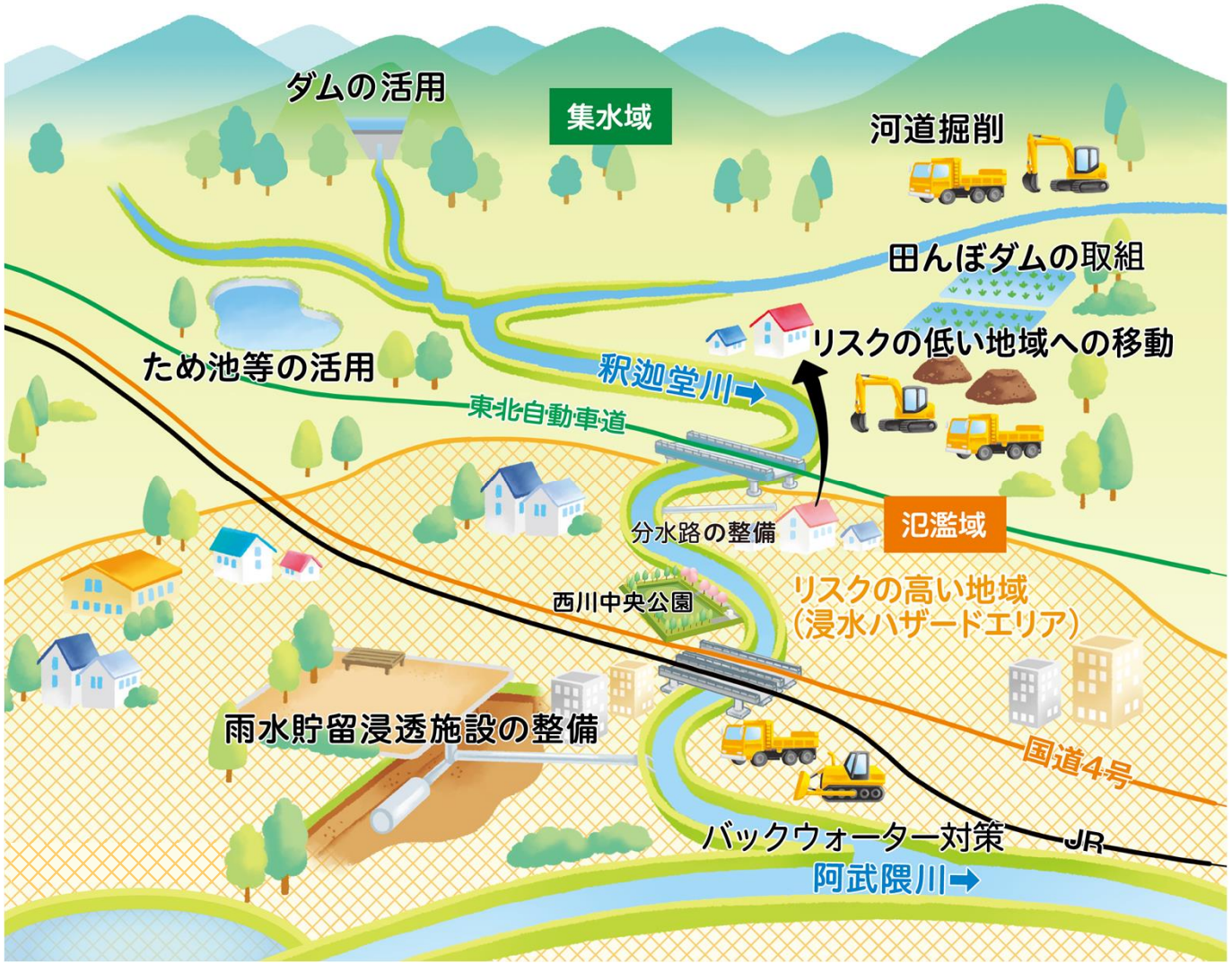
資料2

流域治水

浸水被害対策について（イメージ）



令和7年8月4日

釈迦堂川流域水害対策協議会

①氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策（河川整備）

流域治水

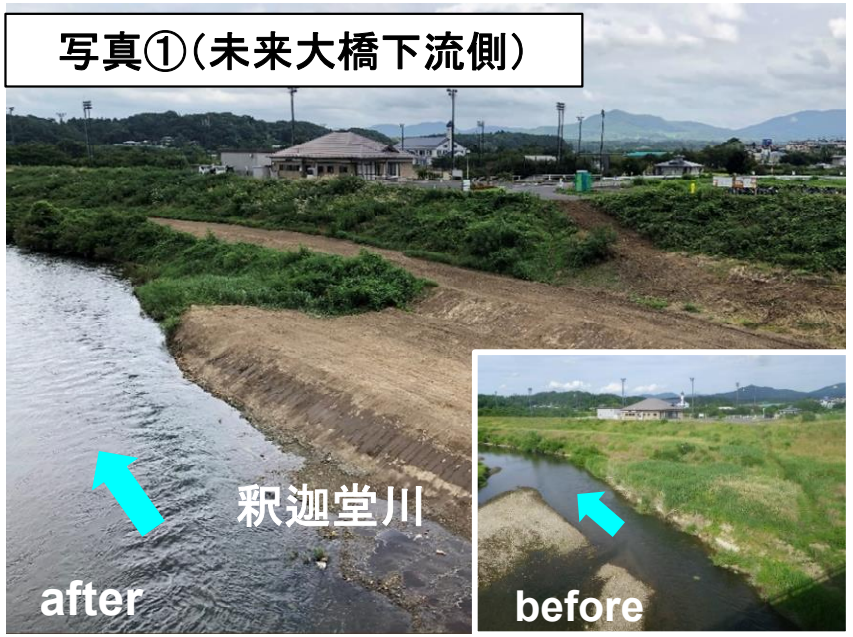
- 釈迦堂川では、令和元年東日本台風の被害を踏まえ、これまでに下流部等で河道整正や樹木伐採を実施。
- 今後、次期河川整備計画（大臣管理区間）において、既設の構造物（橋梁や護岸等）を保全する範囲での河道掘削を実施予定。

令和元年東日本台風時の浸水状況



令和元年10月13日13時頃撮影（国土地理院）

写真①（未来大橋下流側）



写真②（未来大橋上流側）



※釈迦堂川流域での整備の他、阿武隈川の河道掘削、上流遊水地群の整備効果も見込む

①氾濫をできるだけ防ぐ･減らす対策（雨水貯留施設）

流域治水

・西川中央公園再整備として、水害時は雨水ポンプ施設から越水した雨水を公園に流入させる雨水貯留機能を確保し、浸水被害軽減と避難時間の確保を図る。
・平水時は、地域住民の多様な活動の拠点として役割がある。

【施設の利用イメージ】















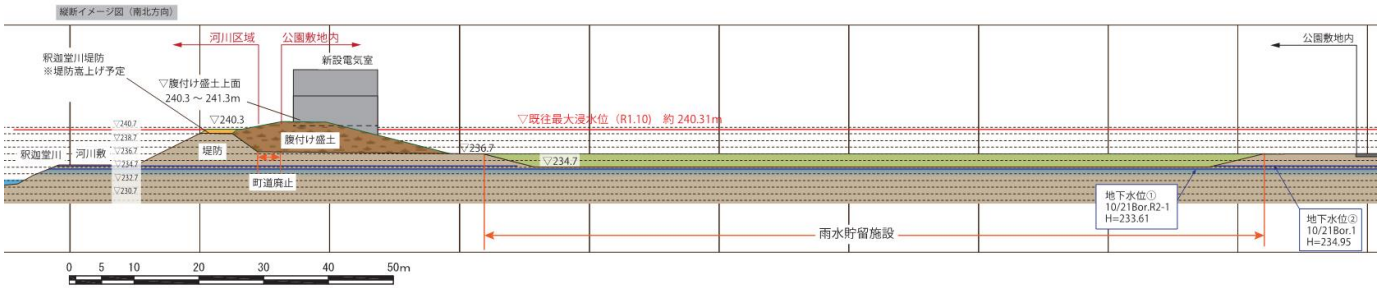
【主な施設】
・雨水貯留施設
V=25,000t
・堤防腹付盛土
N=1箇所

現場状況写真 ： R6.2.15撮影



浸水状況写真 ： R1.10.13撮影





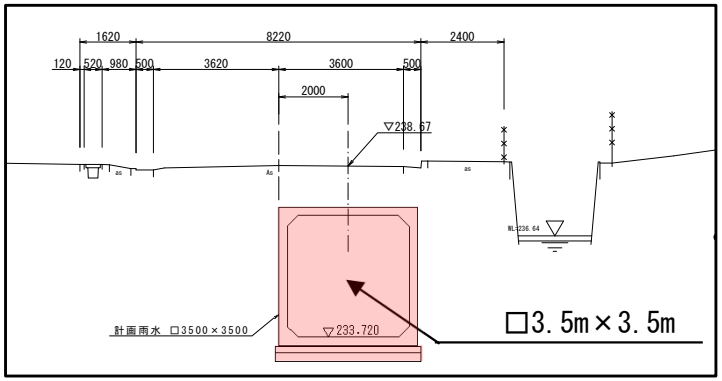
①氾濫をできるだけ防ぐ･減らす対策（分水路整備）

・準用河川笹平川下流域は、店舗や事業所等が多く立地しており、その地盤高は釈迦堂川計画高水位よりも低く、度々浸水被害が発生している地域である。
・内水被害を軽減させるため、総合流域防災事業による笹平川分水路函渠整備を平成30年度現場着手し、令和6年度末には474.6m整備が完了している。

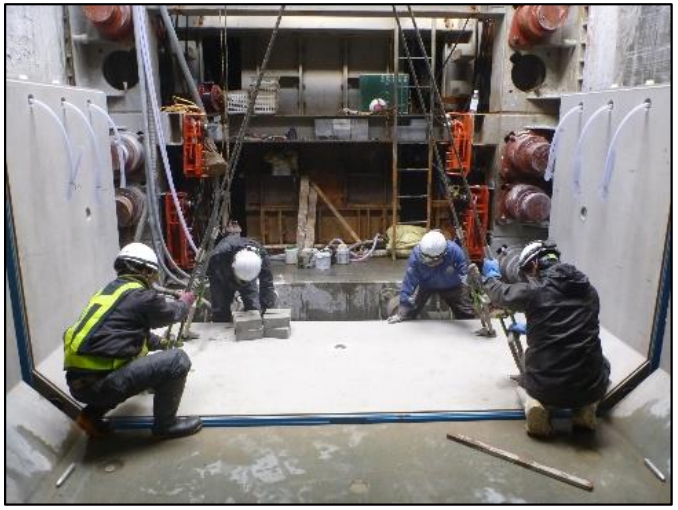
準用河川の整備促進【笹平川総合流域防災事業】
：笹平川分水路函渠整備　全体計画　L＝643m
：令和６年度末整備実績　L＝474.6m



河川整備全体計画



河川整備標準横断図



オープンシールド工法　函渠埋設状況

①氾濫をできるだけ防ぐ･減らす対策（田んぼダムの取組）

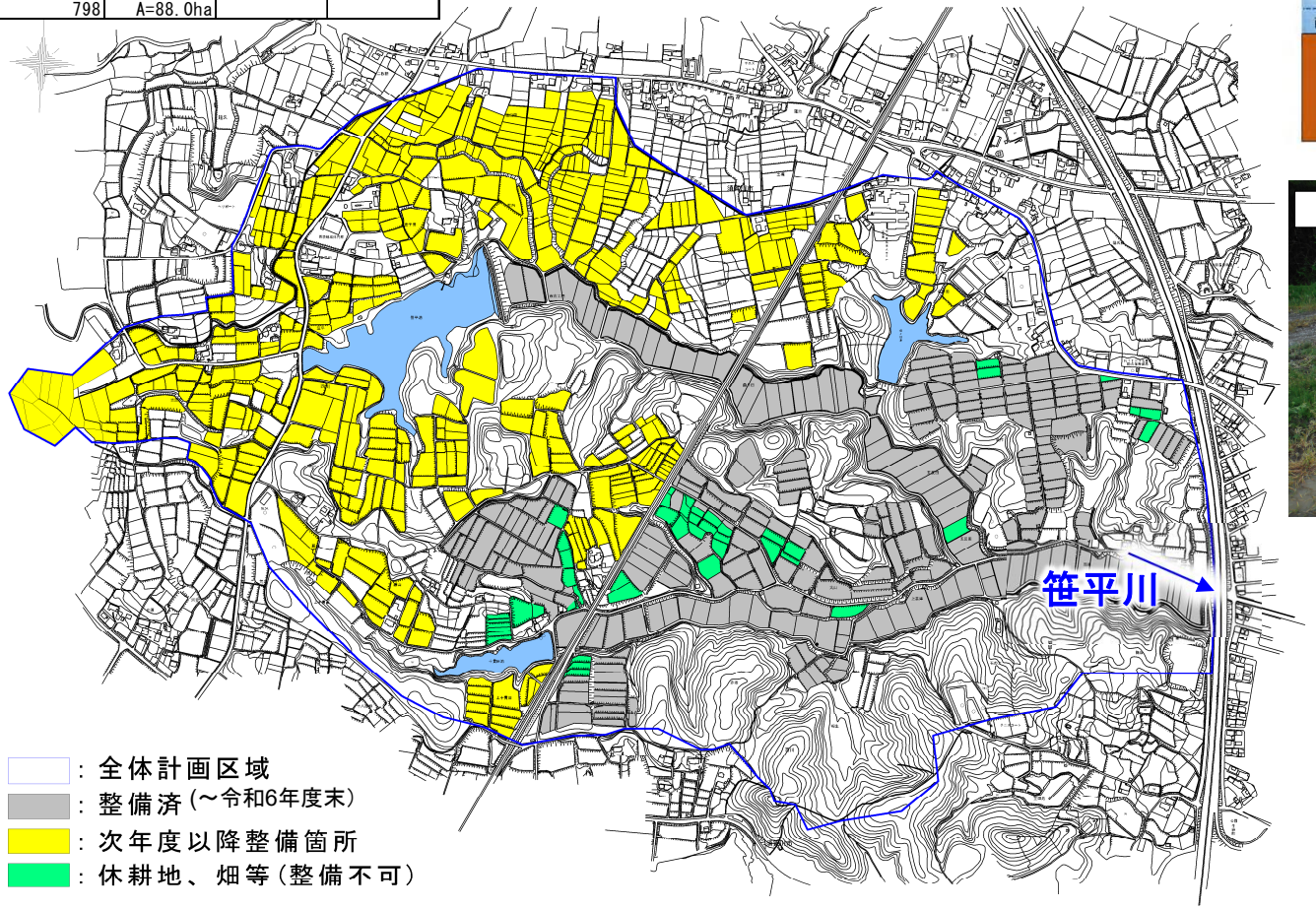
・須賀川市では、笹平川上流域において、地元農業者と連携して平成29年度から田んぼダム実証実験に着手し、日本大学工学部と協働で田んぼダムの取組による洪水緩和効果を検証しながら、田んぼダム落水桝の設置を進めている。
・県及び市では、田んぼダムの取組を推進しており、田んぼダムの普及啓発活動等により農家等への推進活動を展開、関係機関と連携して普及拡大を図っていく。

田んぼダム整備状況（令和６年度末）

	設置数（基）	面積（ha）	累積面積（ha）	整備率（%）
H29年度	52	7.7	7.7	8.7
H30年度	50	6.6	14.3	16.3
R1年度	3	0.8	15.1	17.1
R2年度	8	1.1	16.2	18.4
R3年度	9	2.0	18.1	20.6
R4年度	82	8.9	27.0	30.7
R5年度	95	17.5	44.5	50.6
R6年度	38	4.4	48.9	55.6
R6年度末　合計	337		48.9	55.6

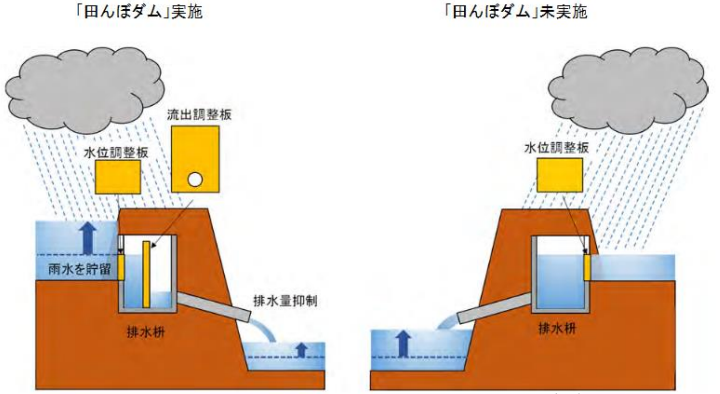
全体計画（須賀川市）	798	A=88.0ha		

全　体　平　面　図　S＝FREE



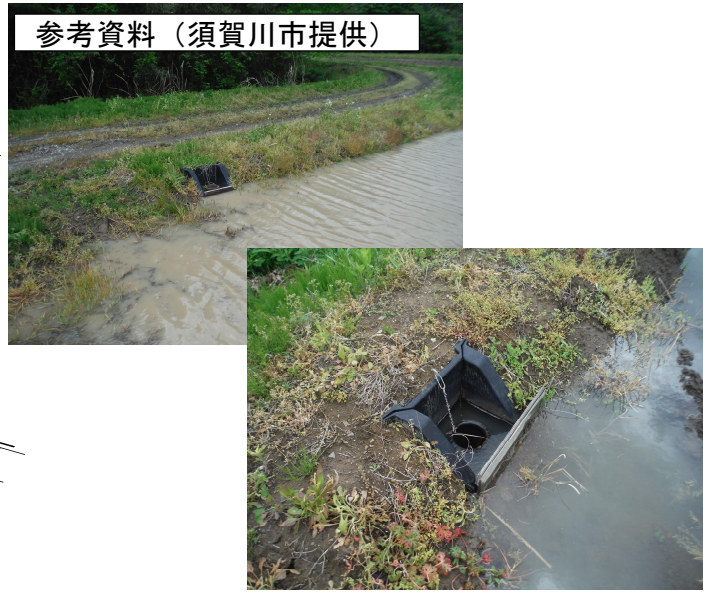
：全体計画区域
：整備済（～令和6年度末）
：次年度以降整備箇所
：休耕地、畑等（整備不可）

田んぼダムの実施イメージ



出典：「田んぼダム」の手引き

参考資料（須賀川市提供）



田んぼダム落水桝設置状況

※田んぼダムの取組みにおける今後の具体な整備箇所は検討予定。

②被害対象を減少させるための対策（災害リスクを踏まえたまちづくり・住まい方の工夫）

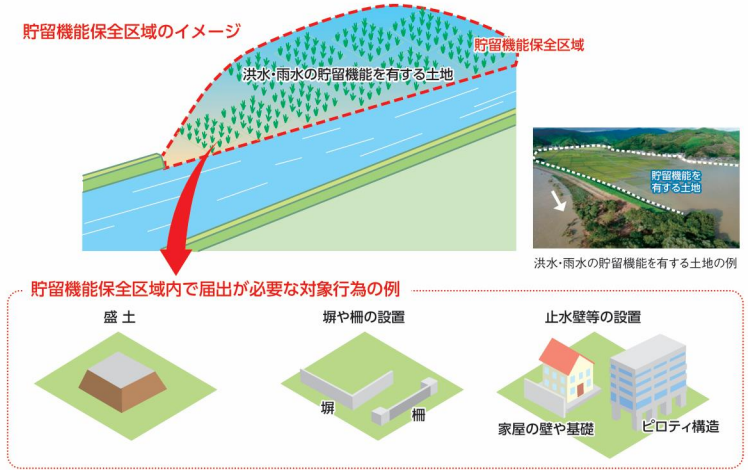
・白河市では、土砂災害警戒区域や50cm以上の浸水想定区域（床上浸水の恐れがある区域）は居住誘導区域から除外している（流域外）。
・立地適正化計画における防災指針の検討により、居住誘導区域の検討や防災まちづくり活動の支援など被害対象の減少を図っている。
・貯留機能保全区域の指定や浸水被害防止区域の指定等、浸水被害の軽減に向けたまちづくりとの連携についても検討していく必要性あり。

○白河市の街なか居住区域（居住誘導区域）における防災・減災の取組方針



出典：白河市立地適正化計画，令和3年8月

○貯留機能保全区域の指定



○浸水被害防止区域の指定



③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策（ソフト対策）

・浸水想定区域図、ハザードマップの周知や出前講座、情報発信による住民の水害リスクに対する理解促進を図る。
・水防資機材の拡充、マイ・タイムラインの普及啓発等による避難実行性の確保　等

○水害災害リスクの情報発信

・イベントでのパネル展示やウェブサイトを用いて、水害に関わる情報を発信。



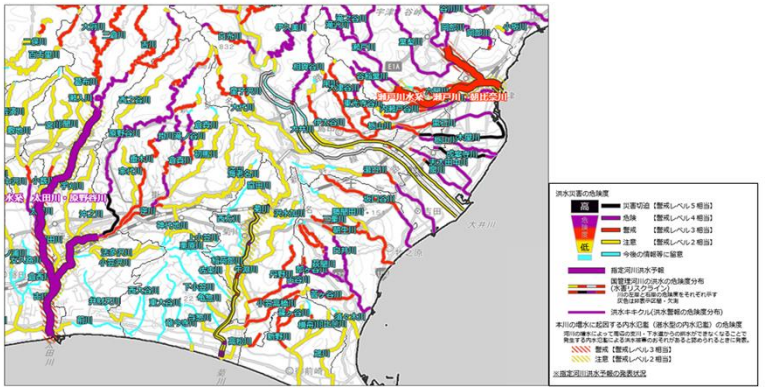
▲イベントでの
パネル展示

▼巡回パネル展





▲河川水位状況をYouTube配信
（福島河川国道事務所）



▲気象庁HPの洪水キキクルの表示

○水防資機材の拡充

・家屋浸水の防止を目的として、土のうステーションを設置。
ウェブサイトで設置個所が周知されており、市民の方が自由に使用できる。





○出前講座

・水害や防災に関する情報を伝え、
住民への理解促進を図る。



▲小学校での出前講座
（鏡石町）

○マイ・タイムライン普及促進

・地区の特性に応じた避難行動を認識し、防災意識を高め、
自助能力を形成するための取組として、
マイ・タイムラインの作成を実施する。

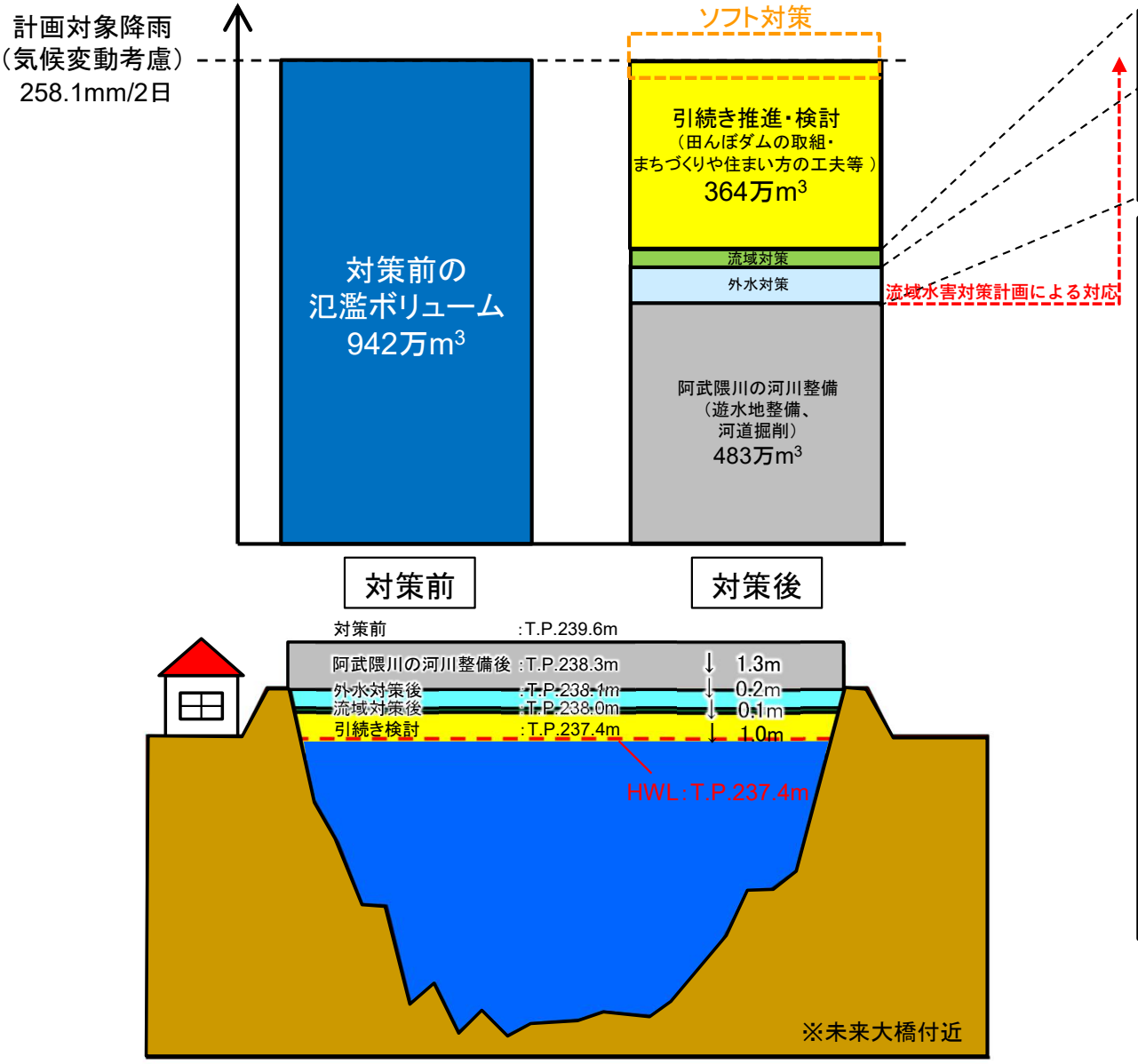




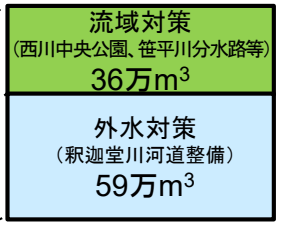
▲マイ・タイムライン講習会
（須賀川市）

流域水害対策計画における浸水被害対策（イメージ）

- 釈迦堂川流域水害対策計画においては、流域全体での対策が必要となることから、雨水貯留機能施設の整備や分水路整備等の流域対策を活用し取り組む。
- さらに、計画を上回る洪水に対しても、氾濫の被害を出来るだけ軽減するソフト対策を推進する。



注意）水位は対策の効果量により変動する場合がある。



【対策内容】

●引続き推進・検討

・田んぼダムの取組※
・ため池の活用
・雨水貯留浸透施設の新設
・ダムの活用
・まちづくりや住まい方の工夫　等
の流域治水の更なる推進

●流域対策

・西川中央公園の雨水貯留機能整備
・笹平川 分水路整備
・排水ポンプの増強

●外水対策

・釈迦堂川 河道整備（河道掘削、河道整正、堤防整備）

※（注1）畦畔の高さ、流出量調整堰板の形状、栽培品種及び営農方法等によって貯留量は大きく異なります。
（注2）水稲生育に影響のない期間の取り組みであり、また、転作の状況により、時期ごとに取組面積が異なります。

※湛水量の算定条件
・計画対象降雨：釈迦堂川　昭和41年9月洪水型（気候変動考慮）
阿武隈川　昭和61年8月洪水型（気候変動考慮）
・阿武隈川の河川整備（大規模災害関連事業及び次期河川整備計画（遊水地整備及び河道掘削）の整備効果を見込む

流域水害対策として想定される取り組み事例

- 更なる浸水被害の軽減を目指し、今後ため池の活用や田んぼダムの取組の更なる推進、雨水貯留浸透施設の新設等を今後検討していく。

【今後想定される対策案の例】

○ため池の活用（ため池貯留）

概要

降雨前の事前放流による低水位管理

降雨予測等をもとに、ため池の貯留水を事前に放流し、空き容量を確保します。



○田んぼダムの取組み

概要

・「田んぼダム」とは、「田んぼダム」を実施する地域やその下流域の湛水被害リスクを低減するための取組みです。

・水田の落水口に流出量を抑制するための堰板や小さの穴の開いた調整板などの器具を取り付けることで、水田に降った雨水を時間をかけてゆっくりと排水し、水路や河川の水位の上昇を抑えることで、溢れる水の量や範囲を抑制することができます。





田んぼダム取組み事例（須賀川市）

○雨水貯留浸透施設の新設

概要

・雨水貯留浸透施設は、主に小流域での氾濫や内水による浸水被害の軽減への効果が期待されるものであり、民間事業者の協力・連携による整備も含め、取組を全国で展開しています。

・地方公共団体においては、施設整備のほか開発等に伴う流出増を抑える流出増を抑える流出抑制対策をルール化すること等が考えられます。



須賀川市の取組み事例

実施主体	ソフト対策
下水道施設課	・雨水流出抑制施設の整備に対する補助制度の導入 （雨水貯留タンク、雨水浸透ます、浄化槽転用等雨水貯留施設）
	・内水ハザードマップの作成と周知
市民安全課	・須賀川市防災情報の発信 （市広報、ホームページ、公式LINEなど）
	・防災ガイドブックの作成と周知
	・避難訓練・防災イベントの開催
道路河川課	・土のうステーションの設置
	・移動式ポンプ車の配置
	・ため池の事前放流
	・田んぼダムの設置
国・県	・河川水位及びライブカメラ映像のホームページ公開
	・福島県防災アプリ
	・特定都市河川流域における雨水浸透阻害行為に対する許可制度等

須賀川市雨水管理総合計画（概要版）より抜粋